

武雄市文化のまちづくり構想（案）に関するパブリックコメント（意見公募）の実施結果

件	点	ご意見（概要）	市の考え方	案の変更
1	1	<p>目標5「地域資源を活かしたまちづくり」 目標6「文化でまちと人をつなぐ未来づくり」 について、少し具体的な施策の方向を提案。</p> <p>(1)「農業」「製陶業」をベースにした文化づくり ①「農業」や「製陶業」に関わる人々の魅力あふれるライフスタイルの発信を行う。専業農業、専業製陶業ではなく、リタイア後あるいは副業として農業、製陶業を行うライフスタイルを広めることで、市民の文化意識の向上のみならず、人口流入や生きがい向上等の効果が期待出来る。「農」「陶」のある暮らし＝文化的な暮らし、SDGS的な暮らし。 ②農家や陶芸家と市民との交流による武雄農業、武雄製陶業の魅力の醸成。多くの市民が農業、製陶業に携わる「場」を作る。農業、陶業体験にとどまらず、市民が農家や陶芸家のサポーターとなり、一緒に商品開発、企画、情報発信活動を行う等が可能では。</p>	<p>武雄市において農業は武雄ならではの生活様式や文化のベースになっており、今後も引き継いでいくべき重要な要素と捉えています。例えば、事業案⑦「文化の伝承者育成」の一環として、農業の魅力を発信する市民講師を募りワークショップを実施するなど様々なアイデアを募り、実行に繋げたいと考えております。</p> <p>また、製陶業について、武雄のやきものは400年以上の歴史をもつ、欠かせない文化的要素であり、今後の活用が重要と捉えています。例えば、事業案①「まちじゅうアートプロジェクト」と絡めた市内各所でのやきものの展示や、事業案⑩「他分野連携によるにぎわい創出」の一環として武雄の食とやきものの魅力を同時に発信するイベントの実施などを想定しております。</p> <p>これらの取組みを行う中で、農家や陶芸家と市民の交流が生まれ、市民が主体となって魅力を自ら発信していく体制に繋がるよう、行政として支援していきます。</p>	原案どおり
	2	<p>(2)起業が増える文化づくり～起業数を増やすにはその環境や文化づくりが重要 1 学校等でのビジネスプラン作り等の起業教育の実施。 2 宮崎県新富町のような民間との伴走型で成功事例を作る。起業の物語（ストーリー）を作り、発信することで起業環境が整い、文化が醸成される。</p>	<p>起業しやすい風土づくりに取り組むことは武雄＝起業という新たな文化を生み出す可能性を持つと考えます。 ご提案を生かす方法として、例えば、事業案⑥「文化の薫る学校づくり」の一環として起業について知る機会づくりを行うことや、事業案⑩「他分野連携によるにぎわい創出」における経済と文化の掛け合わせで、民間企業との連携を促進するなど、他市町の成功事例を参考にしつつ、武雄ならではの起業文化づくりを模索していきます。 また、文化施設についてもビジネス目的での使用がしやすい環境づくりを行うことも検討していきます。</p>	原案どおり
2	3	<p>六角川の土手に桜を植えてほしい。桜は成長が早いので桜の名所をつくれれば、交流人口も増え街が栄える。見所をつくり、インスタ映えすれば全国的に有名になるのでは。</p>	<p>ご意見にもありますように、桜をはじめ本市には先人たちから受け継がれてきた固有の地域資源があります。 この地域の財産を受け継ぎ、更に活かすことで、市の魅力を高め新たなまちのにぎわいづくりを行ってまいります。 見所をつくるという意味で、事業案⑨「地域資源の磨き上げ」において、地域資源の魅力を掘り起こし、活用していく方法を、市民の皆さんに意見を募りながら検討していきます。</p>	原案どおり
3	4	<p>文化について考えていく上で、歴史とは切っても切り離せないものだと考えています。今の図書館は歴史資料館の存在は薄れ、以前と比べ楽しみにくい空間です。 そこで昔のエポカル武雄のような、それ以上の歴史に触れることができる施設空間が必要だと考えています。幼少期の経験は財産になると思います。今の子どもたちが、より文化に興味を持てるようにしてほしい。</p>	<p>武雄の歴史を後世に伝えていくうえで、子どもたちが歴史資料に触れられる場づくりや、情報発信は大変重要だと考えます。歴史資料に触れられる場として、事業案①の「まちじゅうアートプロジェクト」と関連させ、図書館・歴史資料館だけでなく、市内の各所を活用できないかも含めて検討していきます。 また、事業案⑨として提案している「地域資源の磨き上げ」の中で、例えばデジタルアーカイブ化によって歴史資料を現代の技術で更に魅力的に発信できるような機会づくりなど、市民の歴史資料に対する関心を高めていきます。</p>	原案どおり